

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 大垣市

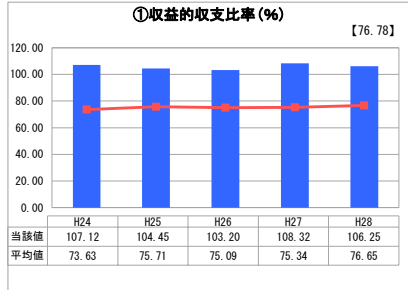
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	3.48	2,376	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
162,038	206.57	784.42
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,636	15.50	363.61

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



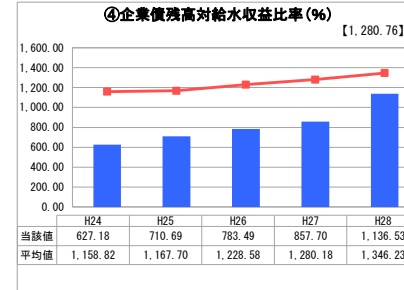
「単年度の収支」



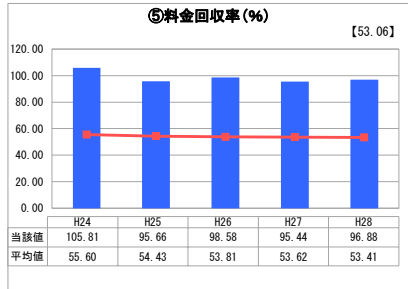
「累積欠損」



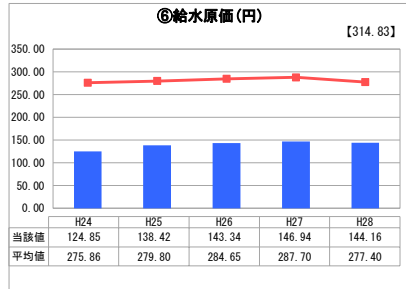
「支払能力」



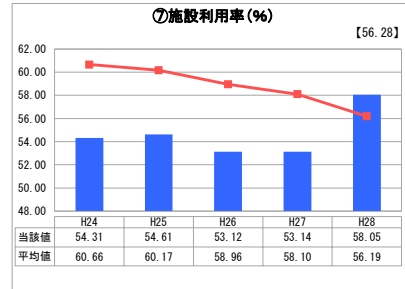
「債務残高」



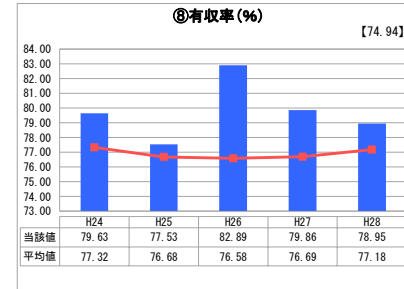
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

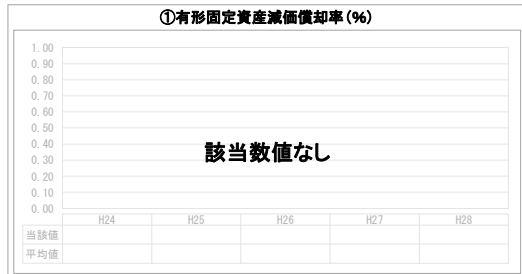


「施設の効率性」

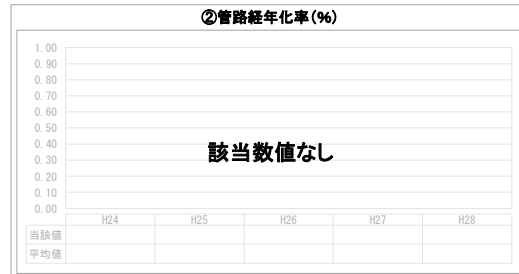


「供給した配水量の効率性」

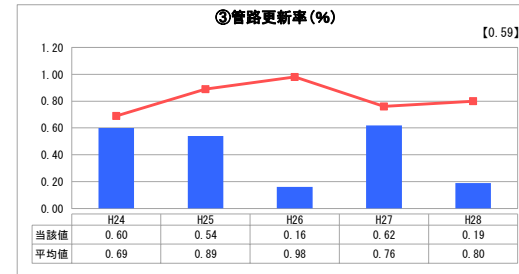
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業では、収益的収支比率が毎年100%を超えており、類似団体の平均を上回っている。また、給水にかかる維持管理費を必要最小限に抑えているため、給水原価も類似団体の平均を大きく下回っている。ただし、一般会計から繰入をしているため、料金回収率が100%を下回っており、これは、給水にかかる費用を給水収益だけでは賄えていないことを示している。

企業債務高対給水収益比率は、現在のところ類似団体の平均を下回っているが、更新が必要な水道施設が多く、上昇傾向にある。

平成28年度の施設利用率は、前年度より大きく上昇しているが、これは、上石津南部地域の3つの簡易水道と1つの飲料水供給施設を上石津南部簡易水道として統合した際、各施設の配水能力を見直したことによるものである。

有収率は、年度毎のばつつきがあるが、これは、もともと給水量が少ないこともあり、漏水等の影響を受けやすいことが原因となっている。漏水に対しては、毎年度漏水調査を実施し、速やかに対応することで、有収率の向上に努めている。

### 2. 老朽化の状況について

管路更新率が類似団体の平均を下回っているが、これは、限られた財源のなかで、老朽化した浄水場の更新を優先したためであり、現在は、牧田浄水場改良事業を進めているところである。

管路の更新については、上記の浄水場改良が完了のち、実施していくことを予定している。

### 全体総括

本事業は、「1. 経営の健全性・効率性」の指標から、経営状態は比較的安定しているように見えるが、今後は、これまでの水道施設更新に伴い借入した地方債の元利償還金が増加することが見込まれる。

また、「2. 老朽化の状況」のとおり、管路の更新も計画的に実施していく必要がある。

今後は、人口減少等に伴う料金収入の減少が見込まれることもあり、これまで以上に経費削減を図る必要がある。

また、将来的に経営状況が悪化することが懸念されることから、抜本的な経営健全化策を検討しているところである。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。